

# デング熱

デング熱はデングウイルスから発症する病気で、ネッタイシマカ、ヒトスジシマカという蚊を媒介として伝染する病気です。この病気は蚊が繁殖する雨期に多く見られ、ウイルスを持っている人を蚊が刺してその蚊からほかの人へ伝染していきます。

## （症状）

蚊に刺されて（感染）から発症するまでの期間（潜伏期）は、普通4～7日です。

急な発熱（38～40度）で始まり、頭痛・眼窩痛・筋肉痛・関節痛・倦怠感発疹を伴います。また、食欲不振・腹痛・便秘を伴うこともあります。

通常、これらの症状は1週間程度で消失し、後遺症を伴うことは殆どありません。

## （デング出血熱）

デングウイルスの感染でありながら、デング熱とは異なった重篤な病態を呈するものにデング出血熱があります。全身の出血傾向（皮下出血、鼻血、吐血、下血、血尿）がみられ、重症例ではショック症状になる事もあります。

## （治療）

デング熱に対する特効薬はありません。治療は症状に応じた対症療法が基本で、脱水予防に経口による水分補給や点滴補液療法が重要となります。また、抗生剤はデング熱には効果がありません。

※ 高熱のときは、解熱剤の使用は可能ですが、アスピリンなどの使用は出血しやすくなるので医師の指示で服用してください。

## （予防）

予防接種も予防薬もありませんので、日中に蚊に刺されない工夫が重要です。

- ・ 長袖・長ズボンを着用し肌の露出を避ける。
- ・ 昆虫忌避剤の使用。
  - 外出時に防虫スプレーを用いる。
  - 室内では蚊取り線香を使う。
- ・ 窓を開けずエアコンを使用する。
- ・ 蚊の繁殖する環境をつくらない。
  - 例えば：水桶、花瓶、古タイヤ、花を活ける皿などに気をつける。

